

時計の使い方

- お買い上げいただいた直後の状態では、時計は作動しておりません。以下の手順でセッティングしてください。
- 本体液晶面の保護シールを剥がしてください。
- 本体背面の電池フタの絶縁テープを抜いてください。
- ※付属の電池は「作動・点灯確認用」ですので、寿命が短い場合があります。
- 時計本体の電源が入り「1月1日AM1200」から時計が起動し、自動的に電波の受信を開始します。
- ※電波の受信には最長約12分かかります。詳しくは「標準電波の自動受信」を参照してください。
- ※電波の受信に失敗した場合（受信マーク消失時）は、「手動時刻設定」を参照して時刻を合わせてください。
- ※電波の受信に成功しても、ノイズにより誤った時刻を表示する事があります。再度受信を試みてください。
- 現在時刻の設定が完了しましたら、「車両への取付方法」にしたがって取り付けてください。

標準電波の自動受信（図1参照）

- 本製品は一日に3回（AM2:00, AM3:00, AM4:00）自動受信を行い、時刻の補正を行います。その日の自動受信で一回受信に成功すれば翌日（AM2:00）まで自動受信は行いません。
- 受信に必要な時間は以下のとおりです。
A：受信環境が良い時は2～3分になります B：受信環境が良くない時は12分になります（最長12分）
- 電波の受信が終了するまでLIGHT ボタンとWAVE ボタン以外は作動しません。
- 電波の受信中は受信状態を示す受信マークが点灯します。
- ※WAVE ボタンを押すと電波の受信を終了します。
- 電波の受信が成功すると、受信マークが液晶画面に表示され、標準時刻に補正されます。
- 電波の受信に失敗した場合、受信マークは表示されません。
- ※電池を入れた直後の自動受信に失敗した場合は、必ず「手動時刻設定」を参照して時刻を合わせてください。

標準電波の強制受信

- WAVE ボタン操作でいつも標準電波を受信することができます。（電波送信所の定期保守実施時には、電波送信が停止されまので受信できません。詳しくは「日本標準時(JST)プロジェクト」のホームページでご確認ください。）
- WAVE ボタンを約2秒間押し続けると、強制的に電波の受信を行います。
- 電波受信中の表示・操作に関しては、「標準電波の自動受信」を参照してください。
- 電波の受信に成功すれば、翌日（AM2:00）まで自動受信を行います。
- 電波の受信に失敗した場合、同じ環境で再度強制受信をしても成功させることは困難です。「手動時刻設定」を参照して時刻を合わせるか、電波障害の少ない環境で強制又は自動受信を行ってください。

手動時刻設定方法（図2参照）

- 電波の受信ができない場合や、お買い上げ後すぐに時刻を合わせたい場合などは、手動で時刻を設定することができます。
- SET ボタンを年（西暦）が点滅するまで約2秒間押し続けます。
- 「年（西暦）」「月」「日」「時」「分」の順に設定していきます。「分」まで確定すると通常状態に戻り、秒は「00」に設定され時計がスタートします。
- ・WAVE または MODE ボタンを押して合わせます。
- ・WAVE または MODE ボタンを押し続けると数字が速く変わります。
- ・時刻等の確定後に SET ボタンを押すと次のステップに進みます。
- ※曜日は日の変更後に自動的に調整されます。
- ※手動で時刻合わせをしても、電波の受信に成功すると自動的に時刻を修正します。
- ※約30秒ボタン操作をしないと、表示されている内容で手動時刻合わせを終了します。
- ※時刻表示は12/24時間表示がありますので、時刻を設定する時に注意してください。
- ※電波を受信できない場合の平均月差は±30秒です。
- ※電波の受信中に WAVE ボタンを押すと電波の受信を終了します。

夏時間（各部名称参照）

- 本製品は夏時間を表示させることができます。※時間が1時間進みますのでご注意ください。
- MODE ボタンを2秒間押しすると夏時間表示になります。このとき夏マークが表示され、時間が1時間進みます。
- 表示を戻す場合は、もう一度 MODE ボタンを2秒間押しします。また、電波の受信後は標準時間に戻ります。

室内温度表示

- 本製品は摂氏（℃）と華氏（℉）の表示が選べます。
- WAVE ボタンを押して（2秒間未満）表示を換えることができます。



電池の交換方法

- 電池交換の際は、金属ステーから本体を外してから行ってください。
- 本体背面の電池フタのネジを＋ドライバーでゆるめて外してください。
- 電池1個を＋側が上になるようにセットしてください。
- ※電池と電池フタ、ネジをなくさないように注意してください。
- 電池フタをネジを＋ドライバーでしっかりと固定してください。
- ※しめずるとネジ穴が破損する恐れがあります。
- 時計本体の電源が入り「1月1日AM1200」から時計が起動し、自動的に電波の受信を開始します。
- ※「時計の使い方」を参照してください。

車両への取付方法（図3参照）

- 本体裏の差込み部に金属プレート（差込み、取付け場所の傾斜等を考慮し、時計が見やすい角度になるように金属ステーを曲げます。
- 金属プレートと車両側の貼付面のゴミやホコリ等を中性洗剤を使いよく拭取り、十分乾かしてください。
- 付属の両面テープを金属プレートに貼付後、車両側に強く押し付けて貼付ます。
- ※両面テープについては「両面テープ貼付の注意」をお読みください。

両面テープ貼付の注意

- 本製品を設置する場合は両面テープを貼る前に、使用するソケットまでプラグコードが届くことを確認して取り付けてください。
- 貼付直後は接着力が弱いのでご注意ください。
- ※両面テープの接着力が発揮される目安は貼付24時間以降です。
- 取付は温かい日中に行ってください。また、貼り直しは接着力が大幅に低下しますので絶対にお止めください。
- 直射日光の当たる場所への取付は、両面テープの接着力が弱くなりますので避けください。
- 本製品は強力な両面テープを使用していますので、貼付け後の取外しは出来ません。万一、取外す場合は車両側の接着面に破損、痕等が発生する場合があります。
- 皮革・布地には取付けできません。また、曲面等、両面テープの接着面が全て密着しない場所への取付は避けください。

各部名称

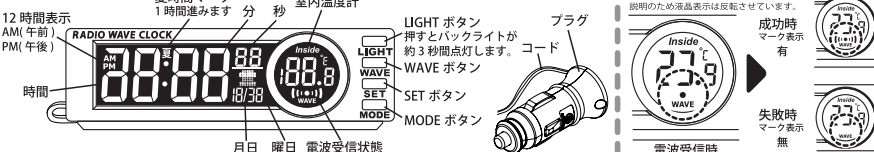


図2：手動時刻設定例（2010年3月21日/日曜日/午前10時30分：24時間表示に合わせます）

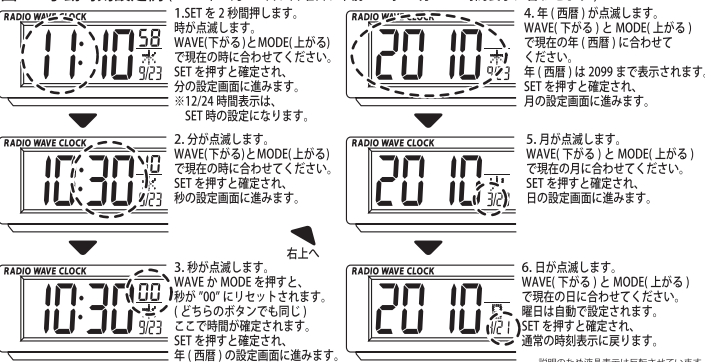
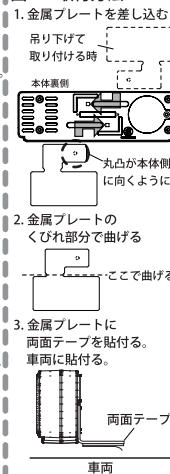


図3：取付方法



内蔵ヒューズの交換方法

- プラグ先端の樹脂部品を回すとイラストのように分解できます。切れたヒューズを交換して元に戻してください。
- ※1A以外のヒューズは絶対に入れないでください。故障・火災の恐れがあります。
- ※ヒューズが切れる原因はショート・容量オーバー等が考えられます。原因を解消してからご使用ください。

